

本書を保健師のバイブルに

評者◎末永カツ子

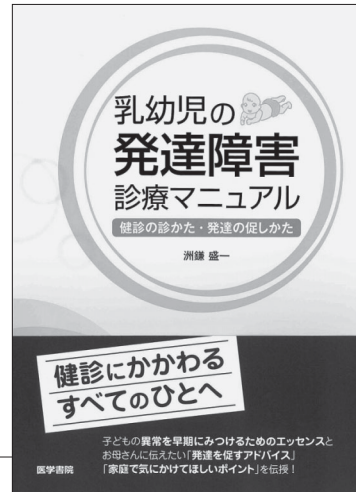
東北大学大学院医学系研究科保健学専攻
基礎・健康開発看護学講座地域ケアシステム看護学分野教授

乳幼児の発達障害診療マニュアル

健診の診かた・発達の促しかた

洲鎌盛一(著)

本体 2500 円 + 税 / 医学書院 (Tel : 03-3817-5657)



少子化が進み人口減少時代に突入しているにもかかわらず、発達障害と診断される子どもは増加しています。この子どもたちは、生涯にわたる支援を必要としており、保健・医療・教育・福祉・就労などの専門家の連携した対応が求められています。

保健師は、乳幼児健診などの母子保健活動のなかで、この子どもたちに出会うことができます。わが子の発達を心配する親たちにとって、乳幼児健診は子どもの育てにくさや生きにくさに気づき、そのわけを知る機会となります。

そのようななかで刊行された本書には、保健師が発達の相談を受け、どのように答えてよいかわからなくなったときに役に立つ内容が数多く盛り込まれています。本書は発達障害の子どもの徴候や病態を理解でき、親への対応の仕方を会得できます。まず、「本書刊行によせて」「はじめに」「あとがき」へと読み進めてみましょう。そうしますと、著者は子どもや親と真摯に向き合った発達障害のエキスパートであること、研修医のために作成した手作りの診療マニュアルが本書のもとであること、亡き著者の奥様の「患者に寄り添った診療の一助に」という願いと、著者の薫陶を受けた弟子たちとの合作であることがわかります。

本文は、「Ⅰ 発達障害概説」「Ⅱ 発達障害の診断」「Ⅲ 乳幼児健診における発達障害の診かた」「Ⅳ 発達障害の指導」から構成されています。ここには、発達障害を理解し親に伝えるための知識、気

になる症状を診るためのポイント、発達の促し方などの臨床の現場で著者によって蓄積されたエッセンスが、わかりやすく記されています。

本文には、「column」（発達障害の診断の手がかりを解説）、「症例」（生後 12 か月～9 歳までの発達障害と診断された子どもたちの発達経過と予後など）、「Key point」（生後 1 か月～5 歳までの発達状態と気になる症状の見極めをするためのポイント）が付記されており、本文の理解をさらに深めることができます。

とくに、以下の本書の内容Ⅱ、Ⅲは、乳幼児健診に携わるすべての保健師のバイブルとなるでしょう。「Ⅱ 発達の診断」では、「A 病歴の取り方」「B 検査」「C 診察のしかた」について解説されています。「Ⅲ 乳幼児健診における発達障害の診かた」は、本書で最も紙幅が割かれており、「A 異常を見つけるキーポイント」には、診断に結びつく神経学的所見やリスクファクターなどについて解説する「column」とこれと連動する「症例」が紹介され、「Key point」が示されています。そして、「B マイルストーン別の発達の促し方」と「C 発達障害児の特徴的行動」が解説されています。

子育てをしているお母さんたちの心強い味方となるために、子どもたちがよりよく生きる手助けをしていくために、若手保健師とともに、本書で学んでみませんか！